

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム 都南太陽荘 鈴蘭ホーム

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370101917		
法人名	有限会社 快互		
事業所名	グループホーム 都南太陽荘 鈴蘭ホーム		
所在地	〒020-0838 盛岡市津志田中央2-3-20		
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町村受理日	令和3年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2ユニットにて運営しており、ご入居者間の交流も日常的に行われ、お互いに良い関係を維持している。荘内の中庭では季節の花や野菜を育てており、ご入居者と一緒に鑑賞したり、調理に用いたりしている。職員は朝のミーティングを通して理念の唱和を行い、原点を見失わないようにしている。また、両ユニットの状況を常に把握するなどし、必要に応じ応援協力が行いやすいよう努めている。夜間待機者体制の確立、AEDの設置など、緊急時の迅速対応や応援・指示連絡がスムーズに行えるよう環境整備に努めている。医療連携体制も確立し、幅広い支援、介護に努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ユニット事業所では、会社の理念である「尊厳」「共生・協働」「自己実現」の3本柱を基本とし、更にその理念を細分化し、利用者の「笑・和・輪・話・技」において太陽荘の花を咲かせることを目指して支援に努めている。マンションやアパートが多く隣接している地域ではあるが、町内会に加入し、町内会長には運営推進会議委員として、地域との繋がりを担っていただく等、地域との関係性が構築されている。玄関前の中庭に菜園を作り、利用者と職員と一緒に収穫を楽しみ、献立の一品として役立てたり、当番制で食後の片付けや食器拭き、洗濯物のたたみをするなど、利用者が参加出来る場を確保しながら利用者の貢献を引き出している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年10月27日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 都南太陽荘 鈴蘭ホーム

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのつながりを大切にご入居者様、当荘関係者が「和」になることを目指した理念を、日々共有できるよう全体ミーティングにて唱和し、「共有」や「振り返り」に活かしている。	理念は、「快互の基本理念(3本柱)」「有限会社快互 理念」「都南太陽荘の理念」からなり、更に毎年度の基本方針が定められている。「有限会社快互 理念」は「笑・和・私・輪・話・技」の形で細分化されている。利用者が日々楽しく自分らしく過ごせるよう、職員は朝のミーティングで「快互の基本理念(3本柱)」を唱和すると共に、玄関にも掲示し、お互い確認しながら日々支援に努めている。	会社理念の3本柱を軸に、さらに細分化した理念があり、また事業所独自理念が立てられており、職員には理念の意義が伝わりにくいことが危惧される。事業所の理念が分かりやすいものとなるよう工夫する事を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ひばり自治会に加入している。運営推進協議会をはじめ、自治会長や児童民生委員、地域包括支援センター等地域の様々な資源の活用に取り組んでいる。自治会長の方には緊急連絡網にも加わって頂くなど、地域との橋渡しとして協力をいただいている。	自治会に加入し、年1回の総会にも参加している。“都南太陽荘通信”を発行し、事業所の情報発信に取り組んでいる。自治会長には緊急連絡網にも加わって頂くなど、地域との橋渡しとして協力をいただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年「介護の日(「家族会)」といった行事を通して認知症への理解を深めて頂けるように取り組んでいる(今年はコロナ禍にて実施できず)。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施し、時々の議題やサービスの評価、地域とのつながりについて議論し、ファイルにまとめ、職員も情報の共有に努めている。	2か月に1回可能な限り参集して開催し、利用者の入居状況、様子等を報告し、また、その時々の課題を議題とし、委員から意見や要望を伺っている。まとめた議事録は職員に回覧し次回にも活かしている。管理者は職員に会議の内容等を口頭で説明したり、連絡ノートで回覧し共有を図っている。毎年第1回の会議の際に、警察署と消防署の職員をゲストとして招請し、専門的な立場からのお話をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	近年は市職員の方にも運営推進協議会に参加して頂くなど適正な運営、サービスの向上に向けたご指導を頂いている。	運営推進会議に委員として市の担当者が出席している事もあり、情報や不明な点などすぐ聞ける関係ができています。運営推進会議の報告書や要介護認定申請に関する事、外部評価の結果などは市に出向いたり郵送する等して、協力関係を保っている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 都南太陽荘 鈴蘭ホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急時以外の身体拘束をしないケアを実践し、ご入居者の「尊厳」、「安心」の配慮に取り組んでいる。また、運営推進協議会での身体拘束廃止に関する委員会活動内容を職員にも情報をまとめ共有している。	運営推進会議に兼ねて「身体拘束の廃止に関する委員会」を定期に開催し、拘束をしないケアに努めている。6カ月毎に事故やヒヤリハットの発生状況を取りまとめ、事例と発生の多い時間帯、曜日などを分析し、グラフ上に表わしながら利用者の支援に役立てている。また、スピーチロックを含め、拘束に関する研修を月1回開催の職員全体会議の議題に盛り込み、理解と共有を図りながら廃止に努めている。転倒防止のため、家族承諾のもと離床センサーを使用している利用者もいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を防止し、ご入居者の行動を制限しないよう他ユニットと連携をし、見前警察署や盛岡南消防署との連携にも努め、万が一のエスケープにも備えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当荘でも成年後見制度を利用されている方がおり、地域会議等での学習も職員の共有に活かしている。ご入居者様やご家族様のニーズに応じ、相談や支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には入居者様、ご家族様に理解、納得して頂けるよう説明を行い速やかな入居を支援している。また退居時の支援やその後の相談など、可能な範囲での支援に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様の苦言の他、言葉にならない不満をくみ取り、最善の支援法について協議し取り組みに活かしている。また、運営推進協議会や家族会等第三者の方の意見も参考にしている。	面会時や電話での家族とのやり取りの際に意見や要望を伺ったり、意見や要望を出しやすいよう担当職員がコメントを記入した「健康相談表」を家族に届けている。家族の意見・要望は職員間で話し合い、サービスの向上に繋がるようにしている。今はコロナ禍で見合わせているが、介護の日に合わせ家族会を開催し交流を深め、その中で意見や要望を聞く機会を設けていた。コロナ禍終息後は再開も考えている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 都南太陽荘 鈴蘭ホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の「申し送り」「ミーティング」「カンファレンス」等を通して出た意見を「業務報告」「全体会議」等にて経営者とともに協議し、より良い支援活動に取り組むよう努めている。	日常の業務の中や各ユニット会議、月1回の職員全体会議を通じ職員の意見等を把握し、業務内容の変更や柔軟な対応が可能ないように改善するなど、サービスの向上に役立てている。管理者による面談も不定期に実施し、資格取得についての意見や要望を汲み取る機会としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のヒアリングや日々の業務の中の職員との会話を大切にし、職員の考えていること等をくみ取り、業務への向上心をもてるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(現在はコロナ禍で難しいが)可能な範囲で外部への研修参加を促し、学んだ内容は内部研修としてフィードバックしている。新入職員にはOJT振り返りシートを活用、できたこと、できなかったことを見える化しその後の指導に生かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(コロナ禍で現在は難しいが)地域密着型サービス協会主催の研修等には可能な限り参加している。また、提携している訪問看護事業所看護師との情報交換にも努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や申し込み時から、当荘への見学の機会を設け、ご本人様の思いや希望を汲み取れるよう努めている。また、ご本人との面談や何気ない会話から、その方が「何を求めているか」を把握できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や見学時などに、ご家族のニーズを汲み取り、要望や不安等時間の許す限りご相談に応じ、事例等もふまえ、情報を提供できるよう努めている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 都南太陽荘 鈴蘭ホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、ご本人への相談内容から「何を求めているのか」を見極め、その方にとって最善のアドバイスを心掛けている。また、必要に応じて他のサービスの情報提供もできるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人ができることを見極め、その方ができるお手伝いや荘内の仕事を一緒に行うことによって、ご入居者一人ひとりが個性を生かし、充実した日常生活を送れるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者様の状況に変化があった場合やご本人からの「連絡したい」等希望があった際は都度連絡をとり合い情報を共有し、協力していける関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(コロナ禍前は)馴染みのある方との面会を歓迎し、故郷への外出、外泊等、ご本人の希望を少しでも実現できるよう努めていた。現在は電話やLINEのビデオ通話等を利用して関係性の維持に努めている。	基本外出禁止としていることから、戸外への外出を控えているが、馴染みの場所にはドライブに出掛け車窓から景色を見たりしている。ライン通話を登録した方が3名いたが、利用する方は少なかった。ガラス越しではあるが、玄関口での面会で家族との関係を継続している。月2回来訪する理容師と音楽療法士が馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お手伝いや日常の創作活動を通して、利用者同士の関わり合いを大切にした支援を行っている。また、利用者同士がコミュニケーションをとりやすい環境作りにも努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様には次の受け入れ先の支援後でも相談可能であることをお伝えしている。また、必要に応じ情報提供も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、ご本人の意見、意向をくみ取り、ご本人の気持ち、思いに寄り添い、希望を可能な範囲で具現化し、自己実現へ導いていけるよう努めている。	日常生活の中で利用者の要望や意見を伺い、言葉で意思を伝える事が難しい方には、仕草や様子から思いを推察している。また24時間シートを用い、モニタリングしながら意向の把握に努め、希望に添えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式も活用、ご家族様や関係機関の情報提供を最良の支援に活かせるよう努めている。また、ご本人とのコミュニケーションや日常生活の過ごし方などで生活スタイルをなるべく把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のモニタリング、ケース記録やコミュニケーションを欠かさず、その都度改善策等についてミーティングやカンファレンスで話し合い、最良の支援を行えるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活より汲み取られたご本人の意向やご家族様からの意向、主治医の意見等から見えてきた課題、提案をカンファレンスで協議し、介護支援専門員が中心に介護計画の作成と見直しに取り組んでいる。	入居時にアセスメントを行い暫定のプランを作成している。その後、家族からの意見や情報を把握し、医師からの指導等を盛り込みながら、荘長、管理者、担当者による、毎月のユニットケアカンファレンスで3、4名の利用者のモニタリングを行い、その結果等を基に3ヵ月毎に介護計画の見直しを行なっている。家族には面会で来所した際などに説明し、了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活における「気づき」を個別の「ケース記録」、「モニタリング記録」等に記録し、その都度職員間で意見を出し合い、カンファレンスで協議し介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「予防」から「支援」、「介助」、「介護」と個々の利用者様の特性や状態に応じた多機能支援、両ユニット間での協力で行う行事や日常生活支援、都南地区の地域の利便性を生かした支援など、柔軟な支援を行っている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 都南太陽荘 鈴蘭ホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時々の行事を通じて地域の民生委員の方、ボランティアの皆様との交流を図り、充実した日々を送っていただけるよう支援している。また、荘2Fのスペースも開放し地域の方の交流の場として使用して頂いている(現在はコロナ禍で実施できず)。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族やご本人の希望に沿った受診支援をしている。状況に応じて複数箇所の受診の支援も行っている(今年度はコロナ対応にてご家族や職員のみでの受診対応も多かった)。	入居前からのかかりつけ医の利用者は9名、残りの9名は家族が付き添い出来ないなどの理由により、協力医療機関を受診している。家族が都合で受診の付き添いが出来ない場合には、職員が代わって対応している。家族が付き添う場合には、利用者の状況をメモにして主治医に伝え、家族から受診結果を伺っている。毎週火曜日には市医師会の訪問看護ステーションの看護師が訪れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご入居者が精神的、身体的に気にかけている事等を職場内の看護師に相談、また週1回の訪問看護師からもアドバイスを受けて対処している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関への情報提供、可能な範囲での職員による面会を通して早期退院に向けた支援を行っている。また、かかりつけ医との情報交換を行い、できるだけ速やかに入院・治療できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が入院や治療等を必要とする状態となった際には、それに対するご本人やご家族の考え方を尊重し、その支援のあり方に日常的に取り組んでいる。	看取り経験は過去に1回あるが、職員のメンタル面などを考慮し、それ以降は行っていない。入居時に看取り等に関する事業所の方針を説明し、了承を得ている。食事が摂れなくなったり、医療行為が継続して必要な状態になるような場合には、予め本人や家族と今後について意向等を伺いながら、事業所として出来る協力を惜しまずに支援に取り組んでいる。看取りに関し、現状では事業所として対応は困難としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等には、看護師や施設長に報告し、できる範囲の応急処置に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に対しての定期的な訓練を実施し、マニュアルに基づいた行動がとれるよう努めている。自治会長の方には緊急連絡網にも登録させて頂いている。	年3回訓練を実施している。夜間想定火災訓練を2回、水害訓練を1回実施している。市のハザードマップでは建物の一部が浸水区域に該当していることから、安全な避難を考慮し、2階への垂直避難としている。今後の夜間想定訓練は、運営推進会議委員の協力を仰ぎながら、薄暮時の実施も視野に入れたいとしている。食糧等3日分を備蓄している。災害時の緊急招集に備え、荘長と管理者の3名が輪番で夜間に自宅待機する体制を整えている。	薄暮時の夜間想定訓練の実施に当たっては、運営推進会議委員や近隣の地域住民の協力を仰ぎながら、職員や利用者の動きなど、様々な課題を確認・分析し、災害への対応力を強化されることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに適切と思われる声掛けやコミュニケーション、接遇に心掛けている。また、個人情報に関してはご家族と確認を行い、適切に管理している。	常に笑顔で穏やかに丁寧な言葉遣いを心掛け、利用者一人一人に合わせた声掛けと、誇りや人格を損ねない対応に努めている。その上でストレスをコントロール出来ないでいる職員が介護の現場で認められることもあるので、接遇やアンガーマネージメント(6秒間我慢する)の内部研修を行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段からご入居者との会話や生活支援を通じてご本人の希望や意見を汲み取り、必要以上に手を出しすぎないよう気を付け、ご入居者の自己実現へ向け、日々より良いケアを心掛けて取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な範囲で一人ひとりの生活ペースに合わせた柔軟な支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気温に合わせた衣類を着て頂けるよう支援している。また訪問床屋を活用し、ご本人の希望する整容に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備等できることをして頂いている。また、当番表を活用し、皆様にお手伝いして頂けるよう工夫している。	同系列の“太陽荘”と合同で立てた献立を一週間交代で使用し、当番の職員が調理している。日々の生活の中で利用者の好みを聴き取り、献立に活かしている。中庭の畑で収穫したものを食材に利用したり、テレビを見て職員と利用者が一緒に作ったりしている。当番表を作り、利用者は食器の洗い、拭き、片づけなどのお手伝いをしている。敬老会の懐石弁当、花見弁当、年越し蕎麦、おせち、ひな祭りのちらし寿司などを提供し、楽しんでいただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合った食事・水分摂取量を日々確認し、対応している。食事量の少ない方に対しては主治医等とも相談し栄養補助飲料等の提供も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の口腔ケアを支援し清潔保持に努めている。必要に応じて歯科受診の検討、通院治療支援に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに合ったトイレへの声掛けを行い、夜間はポータブルトイレも使用するなど可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。	排泄パターンに応じ、定期的な声掛けとトイレ誘導を行なっている。リハビリパンツとパット併用の利用者が多く、布パンツからリハビリパンツへの移行は慎重に行っている。リハビリパンツとパット使用をしていた利用者がリハビリパンツのみになるなど、その人に合わせた支援を行なっている。転倒防止のため、ポータブルトイレは家族の了承のもと、2ユニットで4名が使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その人に合った水分補給の仕方を検討、実施しできるだけ水分を摂って頂くことで便秘の予防に努めている。また、調理には野菜やきのこ類等食物繊維の多い食材を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その方の馴染みの入浴の仕方も尊重しながら、入浴時間をリラックスして楽しんで頂けるよう努めている。	入浴は午後の時間帯に、週2、3回を基本としている。入浴を嫌がる利用者には、無理強いせず本人のペースに合わせたり、コロナ禍以前は家族の協力をいただきながら入浴を促している。同性介助を希望する人にはその意向を尊重している。入浴は、利用者と職員のコミュニケーションの機会になっている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 都南太陽荘 鈴蘭ホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間にぐっすり休めるよう日中帯の活動を工夫し、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケース記録、連絡ノート等で情報を共有している。内服時は他職員と声を出しての確認をする等誤薬の防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居前の生活歴などの把握に努め、張り合いのある生活支援に努めている。一人ひとりの状況に沿った対応も心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(コロナ禍以前は)ドライブや地域の行事などへ出かけていた。また、ご家族やなじみの方との旅行や外出等にも気兼ねなく出かけられるよう支援を行っていた。	コロナ禍のため、以前のように外出支援は出来ていないが、ドライブを兼ね、車窓から景色を見るなどして、気分転換を図っている。天気の良い日には、事業所玄関前に椅子を出し、日向ぼっこを楽しんだり、畑で菜園を作り、収穫を楽しみながら、外気浴をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限りご本人の希望に沿うかたちで、ご家族の協力のもと、(必要最小限の)お金の所持や買い物物の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は事務所の電話をご利用頂き、ご家族等との会話を楽しんで頂いている。手紙のやり取りも制限することなく支援をしている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 都南太陽荘 鈴蘭ホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のお花、皆様の写真、創作品等を飾り、天窓からの自然光、中庭に面した窓から菜園の風景を楽しんで頂いている。また、空気清浄器や冬季には加湿器を設置し居心地良い環境作りに努めている。	事務室と調理室を間に各ユニットのホールがそれぞれ左右にあり、利用者は自分の席に座ったり、テレビの体操に合わせて体操するなど、思い思いに過ごしている。ホールの天井にある天窓からの自然光を取り入れ、夏は葎簀やカーテンで日除けをし、エアコンも使用しながら適温を保っている。冬は床暖とパネルヒーターや加湿器で室温を調節している。壁面には職員と利用者と一緒に作った貼り絵や季節を感じさせる折り紙作品が飾られ、居心地の良い環境作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの自席の他にもソファや他ユニットへの移動も自由に行っている。お手伝いやレクリエーション活動を通して自然とご入居者同士の会話が弾む機会も見られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力のもと、ご本人の大切なものやなじみのある品々を持ち込んで頂き、より安心できる空間作りを支援している。	居室はベッド、クローゼット、棚が備え付けられ、冬はパネルヒーターで暖を取り、夏はホールのエアコンだけなので、扇風機を持ち込み、居室内の温度調節を行なっている。カレンダーやタンス、位牌、テレビ、孫の写真を持ち込んだり、自分の作ったものを飾るなど、居心地よく過ごせる居室としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人のできることを見極め、できないところにはベッド手すりやシルバーカーを使用して頂く等できるだけ自立した生活を送っていただけるよう支援している。		